

シンポジウムⅣ 「子育てを手助けする『頼りになる情報環境』の構築に向けて」

竹林洋一（シンポジウムⅣ オーガナイザー）

【パネリスト】

板倉昭二（京都大学）
桐山伸也（静岡大学）
佐藤久美子（玉川大学）

【オーガナイザー】

竹林洋一（静岡大学）

情報環境の進歩は子育てにも大きな影響を与える存在となってきた。少子高齢化や核家族化の進展など子どもを取り巻く環境は変化し、育児不安や凶悪犯罪の低年齢化などが社会的な問題となってきた。多種多様な育児法や育児書があり、インターネットの普及によって、いつでも、誰でも、大量の育児情報を手軽に入手することが可能となった結果、誤った情報や不安をあおる情報も氾濫するようになってきた。本シンポジウムでは、安心して子育てができる情報環境の構築に向けて、「子育て支援のための頼りになる情報環境」とは何か、その実現には何が必要かという観点で第一線の専門家が参加者を交えて、以下のトピックについて議論した。

- 養育者・子どもの多様なニーズに対応できる情報環境のデザイン
- 多種多様な育児について知識のコンテンツ化と深化・成長の仕組み
- 子ども学と言葉の学習からみた母子インタラクション
- 乳幼児の発達と常識の獲得：初期の社会的認知と後の社会性

■板倉昭二氏

「乳幼児の発達と常識の獲得

——初期の社会的認知と後の社会性」

板倉氏からは「乳幼児の発達と常識の獲得：初期の社会的認知と後の社会性」についての研究成果の紹介があった。乳幼児は言葉を使わずに、様々な方法で母親とやり取りをし、環境と関わりながら成長する。乳幼児は他者の心を理解したり、モノを操作するスキルを獲得したり、また、共感性や道徳性などの社会的な

常識をいつのまにか身に付けている。発達初期の社会的シグナル（視線、顔、生物的動き）に対する反応と、後に出現する心の理論の発達や感情理解の発達との関係について、縦断研究から得られた興味深い成果が実験結果に基づいて紹介された。

■佐藤久美子氏

「子ども学と言葉の学習からみた

母子インタラクション」

佐藤氏からは「子ども学と言葉の学習からみた母子インタラクション」についての研究の取り組みが紹介された。人間の知的活動を支える言葉は、生後数年間に周囲との相互作用によって飛躍的に発達する。乳幼児の言語・認知発達に焦点を当てた行動、脳科学などの知見や、言語の習得法や指導法は、外国語教育にとどまらず、子育てのヒントにもなる。2歳児の単語を反復する力と語彙力の相関は強く、日常的に母親とよくコミュニケーションを取り、母子ともに真似をして繰り返し単語を発音する。エビデンスに基づいて語彙獲得を促進していることが紹介された。幼児の脳は、経験や学習内容によって変化しており、的確な情報を与え、子どもにとって望ましい学習環境をデザインできるのは、母親である。巷にあふれる情報を盲信しない姿勢と、客観的な情報を選択できるような情報環境が必要であることが示唆された。

■桐山伸也氏

「深化成長する育児支援コーチングサイトの提案」

桐山氏からは「深化成長する育児支援コーチングサイトの提案」について、子育て支援環境のデザインという観点で話題提供があった。ネット上には子育てブログや育児情報共有サイトが多数ある。しかし、現状の育児相談コンテンツで育児の悩みをすっきり解消できることは稀である。子育てのスキルや子育ての目標や方針が異なるが、単一の視点で捉えた回答だけしかない場合が多いとの指摘があった。新開発の育児支援コーチングサイトは、相談者のスキルや状況に応じて適切な情報だけを回答し、納得するまで繰り返すとい

う仕組みを提供している。各種専門家の指導を映像で提供しており、信頼性の高い解説や子どもの行動事例が豊富であり、それらを互いに関連付けて育児の在り方をじっくり考えられる点が特長である。



各シンポジストは異なる視点からの子育て支援の情報環境構築に向けて話題提供し、それらが互いに有機的に関連しフロアの参加者も様々なヒントが得られ、「想い」が共有できたようである。板倉氏は、専門家の鋭い観察眼を持ってすれば社会的常識の習得という内面的な発達まで観察可能であることを示したといえる。情報環境は与えられるものではなく、自らが選択するものだという意識が重要という佐藤氏の指摘は示唆に富んでいる。専門家視点の知識を子育て現場の視聴者が理解できる形で提供する仕組みが必要という桐山氏の主張も重要である。シンポジストの講演に対し



て会場からは、信頼できる情報をどのように見極めるか？ コンテンツの具体的な増やし方は？ といった質問で活発な議論に発展した。専門分野を超えた議論を通じて、専門家と視聴者を巻き込んでコンテンツを深化成長させるのが重要であることを確認した。シンポジウムの成果を発展させ、実践的な育児支援の知識コンテンツを充実化し、信頼性の高い情報環境構築を加速したい。

森の小さな〈ハンター〉たち

狩猟採集民の子どもの民族誌

亀井伸孝 著

A5判・292頁・3570円

ISBN 978-4-87698-782-5



圧倒的なリアリティで迫る

森の子どもの
フィールドワーク

箕浦康子氏

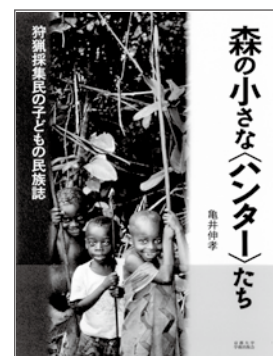
(お茶の水女子大学名誉教授)

推薦！

一人前の男性が子どもたちに

仲間として受け入れられていくプロセスやスケッチを描くことを通じて形成されるラポール…。

本書は、カメルーン共和国東部の森の狩猟採集民バカ・ピグミーの子どものなかでの1年半の記録である。近代的諸制度導入前の社会で子どもはどう生きていたかをトータルに捉えた学校教育・心理学関係者必読の書！



「教育のない社会」で主体的行動選択と文化創造を通じ自ずと成長する子ども達。教育とは何か？ 本源的問いに迫る愉快で可愛い民族誌。

K 京都大学学術出版会

606-8305 京都市左京区吉田河原町15-9 京大会館内〈価格は税込〉
<http://www.kyoto-up.or.jp/> TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190